

斎藤工さんがワイルドなカウボーイ・“家買うボーイ”に！

『SUUMO』新 CM で馬に乗り荒野を爆走^{ばくそう}

フィルム撮影による西部劇映画風の壮大な世界観に注目

華麗なスマホさばき披露！コミカル要素も満載

インタビューでは理想の物件や俳優デビュー25 年を振り返っての感想語る

「ムダモブーム来い！」お気に入りの購入品「ふんどし。年中それで過ごしているくらい推奨」

株式会社リクルート（本社：東京都千代田区 代表取締役社長：牛田圭一）が運営する、不動産・住宅情報サイト『SUUMO』は、斎藤 工さんが出演する新 TVCM「斎藤さんの家買うボーイ」篇を、2026 年 9 月 26 日（土）より全国にて順次放映開始することをお知らせ致します。それに先駆けて、9 月 18 日（金）より Web 上にて公開いたします。今回の TVCM では、カウボーイならぬ“家買うボーイ”を演じる斎藤さんが広大な荒野を馬で爆走するワイルドなカウボーイ姿で登場し、理想の物件を購入するまでの様子を描きました。フィルムで撮影された本 CM は、CM であることを忘れてしまうような本格的な西部劇映画風の世界観を展開。一瞬のスマホさばきで『SUUMO』を開き「Good buy」と満足げにつぶやき去っていくコミカルな一幕にもご注目ください。また斎藤工さんのインタビューでは CM 撮影の感想や、「いつかこんな物件に住んでみたい」という理想の物件のほか、俳優デビュー25 年を振り返っての感想、「Good buy」と思わず言いたくなるお気に入りのアイテムなどについてお話しいただきました。



< 斎藤 工さん出演『SUUMO』CM「斎藤さんの家買うボーイ」篇 >

<https://youtu.be/3vSCoqsA1HA>

■TV 放映・Web 配信情報

- ・2026 年 9 月 26 日（土）より順次、TVCM 放映（一部地域を除く）・YouTube ほか各種 SNS にて配信。
- ・2026 年 9 月 18 日（金）16 時より『SUUMO』公式 YouTube にて、TVCM 本編を先行公開します。

■クレジット情報

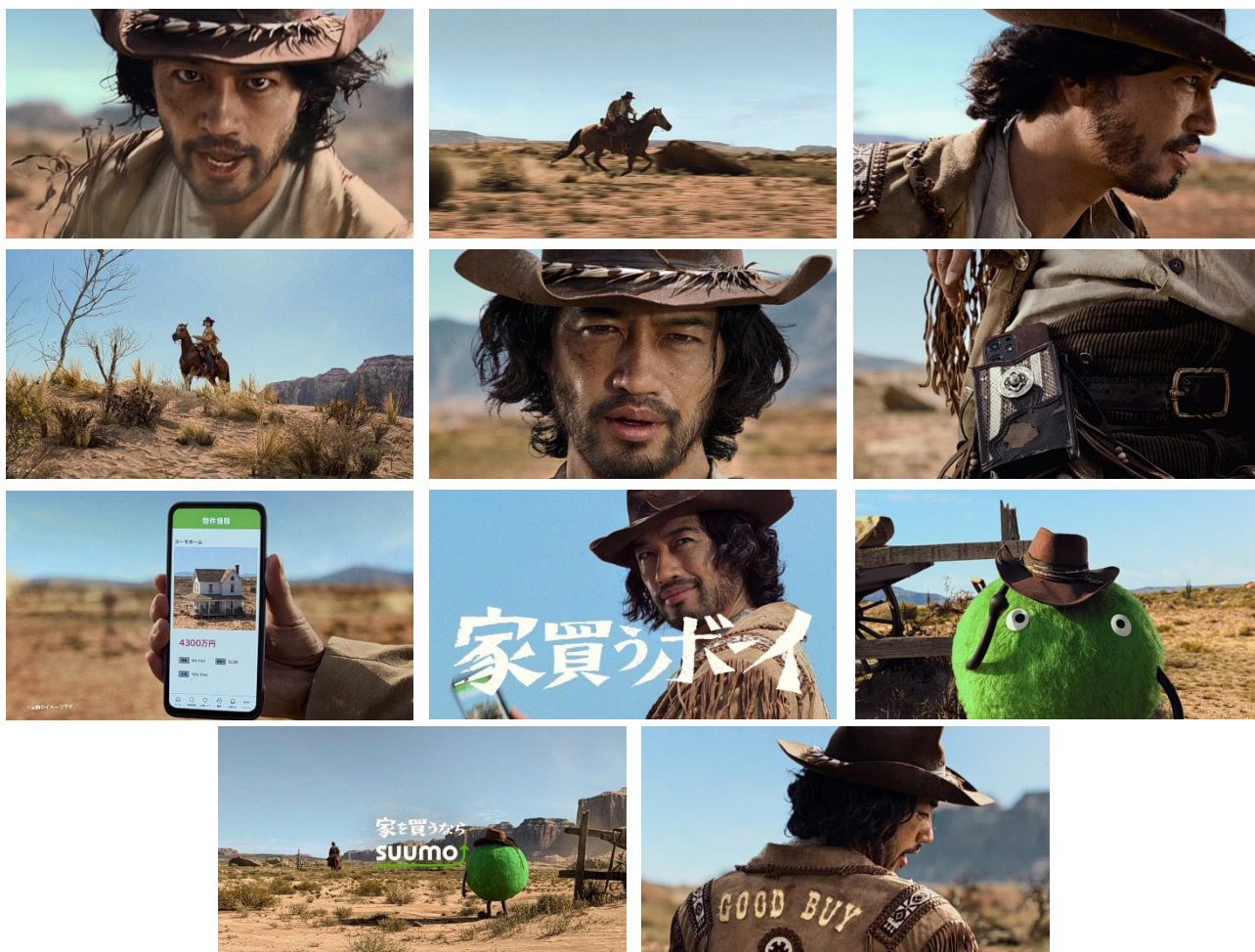
- ・『SUUMO』TVCM「斎藤さんの家買うボーイ」篇

本件に関する
お問い合わせ先

<https://www.recruit.co.jp/support/form/>

■CMのあらすじ・カットデータ

太陽が照りつけ地平線まで続く荒野を「イエー！」と叫びながら馬に乗って爆走し、激しい砂塵を舞い上げる、斎藤工さん演じるカウボーイ。丘の上で馬を止めると、何かを発見したかのように鋭い視線を送ります。どこか緊張感漂う真剣な眼光で、腰のホルダーへじわっと手を伸ばすと目にも止まらぬ速さで抜き放ち、指でクルクルと回転させたのは「スマートフォン」。画面に映し出されているのは『SUUMO』アプリに掲載された荒野の戸建て物件です。スマホを下ろすと、目の前には画像と同じ一軒家が佇んでいます。その物件を目にした斎藤さんは大満足の表情を浮かべ、近くの木陰で休んでいたカウボーイハット姿のスーモもハットをつばをクイッと上げてグッドポーズ。家を買うことを決め「Good buy...」とつぶやきながら晴れやかに去っていく斎藤さんをスーモが見送ります。「家を買うなら、SUUMO」のメッセージとともに締めくくられ、本格映画さながらのスケール感とシュールなテンポの良さが際立つストーリーです。



■斎藤 工さん特別インタビュー

—CM撮影の感想を教えてください。

今回フィルムで撮影していて、CMをフィルムで撮影するというのは僕の経験上でもほとんどないことなので、このフィルム感、マカロニ・ウェスタン感に非常に興奮しましたし、映画のような質の高い映像作品になるのではと胸が高鳴りました。単なる再現やコスプレではなく、さまざまな映画を手掛けてきた撮影監督をはじめとするスタッフが集まって、質の高さや奥行きを目指している体制だったので、まさに映画のようだと感じましたね。モニターやスチール写真を確認するたびに、フィルムの持つ味も噛みしめていました。昨今はきれいな映像やショート動画が日常に多く溢れていますが、そういう時代だからこそ、こうした映像

の深みを目指すチームとキャラクターに任命していただけたことに感謝でいっぱいです。

—ストーリーや世界観についてはいかがですか？

『カウボーイ（家買うボーイ）』や『Good buy（グッドバイ）』といった言葉の韻や印象が強く残る作品になっています。シリアスかつ実直にこの世界観に向き合っているからこそ、コミカルな要素やそこで発せられる言葉がより際立つのではないかと思います。

最近と同業者も含めてここ 10 数年は髭もなく“ツルツル”とした方向へ男女問わず向かっている印象があります。この時代の中で、あえてワイルドな世界観を見せることにカウンターカルチャー的な面白さを感じました。亜流と主流は大きく回ってまた別のフェーズになってくるのかなと思っているので、「ムダ毛ブーム来い！」と思っています（笑）。

—カウボーイ役を演じられていかがでしたか？

実は数年前にまさにこの撮影場所で、あるアーティストがカウボーイ役を演じられるミュージックビデオを監督させていただいた経験があります。日本人とカウボーイの接点や、重ねてきた生き様が役にしみ出る感覚を強く感じていたので、今回のカウボーイ役と点と点が繋がる感覚がありました。

また、西部劇はアメリカの時代劇であり、名作『荒野の七人』のルーツが『七人の侍』であるように、カウボーイは日本で言う侍的な存在だと捉えています。衣装やヘアメイク、撮影・美術スタッフの皆さんの力を借りて、一瞬のカットからその背景にある物語を、観ている方が想起できるような素晴らしい瞬間を生み出したいと思って撮影に臨みました。

—今回の撮影で感じられたことを一言でまとめるとしたら？

「年齢を重ねることの良さ」だと感じています。ただ時間を重ねるだけでなく、自分の中でずっと引っかかっていた経験や点が今に繋がり、集約していく強さを実感しています。表現をする上でも、運命の点を繋いでいく作業を大切にしていきたいと思っています。全ての出来事は『必然』だと信じていますし、今回の作品も出来上がった映像がまたその必然を教えてくれるのではないかとと思っています。

—CM の注目ポイントを教えてください。

世に増えているクリアな映像にはない、この作品ならではの『味わい深さ』や表面的に通過させない印象深く心に残る何か、に注目していただきたいです。

—今回の CM では荒野の中に佇む戸建てを見つける様子が描かれていますが、戸建て・マンションなど家を購入するならどのような家がいいですか？「いつかこんな物件に住んでみたい」という物件や、どんなスペース・部屋を作りたいか教えてください。

僕は普段から裸足になって自然に触れる「アーシング」が好きで、人気のない夕方の海に 20 分ほど浸かったり、撮影現場でも裸足で過ごしたりしています。肌が生き返る感覚があり、土や自然との相性は感覚としてとても大切だと感じています。ローカルで自然豊かな暮らしを一昨年からずっと探しています。仕事の利便性も考慮しつつ、45 歳を迎える自分のタイミングとしては人生を集約させていくフェーズだと思うので、『自分の心がどこを拠点にしたいか』を重要視しています。パワースポットに行くのも良いですが、何より『家がパワースポットであるべき』だと思うんです。自宅がある土地の磁場やエネルギーとの相性が大事なので

はないかと。

実は昨日も東京郊外で滝行をしてきたのですが、自然の中に行くと何千年・何万年という壮大な時を感じます。人間がそこに少しだけ住まわせてもらうという考え方で、自分自身のアジトのような場所を見つけたいですね。家を買うということがとても切実に感じられる年齢になった今、こうして SUUMO さんにご縁をいただいたことにも深い物語と意味を感じています。

—2001 年の映画デビューから今年でちょうど俳優デビュー25 周年を迎えられます。この 25 年間を振り返っていかがですか？

決してスムーズとは呼べない 25 年間でしたが、全ての出会いや出来事に必然があり、それらを繋いでいくことがこれまでの歩みを肯定してくれていると感じます。全ての出会いが今に結実しているとは言えないかもしれませんが、“あの時のあれがなかったら今の自分はいない”といったことが、25 年の中で多々ありすぎて。過去の出来事や他者からの恩恵が三つ編みのように織りなされて今の自分があるのだと思います。俳優業は不安定な職業なので決して万人にお勧めはしませんが、出会いが肯定してくれて、確定的ではないからこそ生まれる『見えない筋肉』のようなものが物を言うのだと再認識しています。

—これまでの 25 年を一言で表すと何でしょうか？

キャリアを重ねるにつれて完成度が伴っていくと思っていましたが、伴わないまま来ちゃった感覚があります（笑）。自分は「自分がこの仕事に一番向いていない」と思わないと準備も努力もしない怠惰な性格だと分かっているので、未熟である自覚を大切にしています。

25 年を一言で表すなら『不安定という安定』や『未熟な熟し方』ですね。安定してしまうと大事なものが失われてしまう気がして。到達できたという自覚がないからこそ 25 年間やめずに続けてこられたのだと思います。

役者は、異業種の方が作品の中で驚くほど輝くことがあるように、職業的に積み重ねてきているものより、何か奇跡が起こるっていう不思議な職業だと思います。「これでいいんだ」と満足してしまうと人の心を動かす何かを失ってしまうのではないかと感じています。甲子園球児のように、計算のない純然たる実直さに人は胸を打たれるものだと思うので、いろんな作品を見るというより、自分が本当に見たいものや心が動く瞬間を逃さず失わないことが生涯大事なんだと思います。

—CM の最後には、満足そうな表情で「Good buy...」とつぶやくセリフが印象的です。斎藤さんの人生を通じて、「Good buy」と思わず言いたくなるお気に入りのアイテムがあれば教えてください。

本気でおすすめしたいのが『ふんどし』です！体の熱を逃がす構造になっていて、特に日本の猛暑を乗り切るための先人の英知が詰まっています。ゴムによる締め付けがなく自分で強さを調節できるのも魅力で、実は着替えがない声だけのお仕事の時などは年中ふんどしで過ごしているくらいです。あくまで個人的な実感ですが、和食にシフトしたら健康状態が改善された経験と同じように、現代にこそこうした伝統の理にかなった昔の和の文化が必要だと感じています。

もう一つは、知人に勧められた『頭の熱を全部逃す枕』です。この『ふんどし』と『熱を逃す枕』の 2 点セットがあれば、今の季節でも空調に頼りすぎず窓を開けて扇風機を弱で回すだけで快適に眠ることができそうです。特に最近はふんどしの普及活動をしています（笑）。みなさんも騙されたと思ってぜひ試してみてください。

■出演者プロフィールについて

斎藤 工



1981 年 8 月 22 日生まれ 俳優／映像制作。

モデル活動を経て 2001 年に俳優デビュー。主な出演作に映画『昼顔』『シン・ウルトラマン』『新幹線大爆破』『This is I』『キングダム 魂の決戦』、ドラマ「極悪女王」「海に眠るダイヤモンド」「誘拐の日」Prime Original ドラマシリーズ「犯罪者」など。公開待機作に来年公開の『存在のすべてを』などが控えている。

初長編監督作『blank13』は国内外の映画祭で 8 冠を獲得。企画・プロデューサーを務めるドキュメンタリー映画『大きな家』は第 34 回日本映画批評家大賞ドキュメンタリー賞を受賞。

永尾柚乃初監督作品『LITA』でもプロデュースを務める。

また、全国の被災地などでの移動映画館「cinéma bird」主宰、「Mini Theater Park」、白黒写真家など、活動は多岐にわたる。

■SUUMO について

株式会社リクルートが運営する『SUUMO』は、住まいを借りたい・買いたい・建てたい・リフォームしたい・売りたいという、幅広いニーズに応えた不動産・住宅の総合情報サイトです。多くの切り口で物件や会社情報、事例が探せるほか、ノウハウやマーケットトレンド、お役立ち記事など幅広いサービスで、自分にピッタリの住まい探しをサポート。スマートフォンサイト、PC サイト、アプリでご利用いただけます。

<https://suumo.jp/>

リクルートグループについて

1960年の創業以来、リクルートグループは、就職・結婚・進学・住宅・自動車・旅行・飲食・美容などの領域において、一人ひとりのライフスタイルに応じたより最適な選択肢を提供してきました。現在、HRテクノロジー、人材派遣、マーケティング・マッチング・テクノロジーの3事業を軸に、60を超える国・地域で事業を展開しています。リクルートグループは、新しい価値の創造を通じ、社会からの期待に応え、一人ひとりが輝く豊かな世界の実現に向けて、より多くの『まだ、ここにはない、出会い。』を提供していきます。

詳しくはこちらをご覧ください。

リクルートグループ：<https://recruit-holdings.com/ja/> リクルート：<https://www.recruit.co.jp/>